

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園

学校関係者評価委員会

委員長 小林 美貴

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 5 年 5 月 19 日 18:00~19:30(1 時間半)
場所	新館 8 階 ホール
出席者	【委員】 小林 美貴(教育機関)、阿部 浩(教育機関)(オンライン参加)、文道 優妃(教育機関)、竹島 由紀恵(教育機関)(オンライン参加)、富岡 啓夫(業界)、遠藤 友子(業界)、白井 幸男(業界)(オンライン参加)、篠崎 紗織(卒業生・業界) 【教職員】 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、古荘 浩司、福島 美奈子、池田 昌央、嶺 雄太、境田 三友紀、齊藤 彩子、高橋 淳実(事務局)
配布資料	自己評価報告書(事前配布)
学校作成の自己評価報告書に基づき各委員が事前評価をおこなう。 学校側の自己評価と委員による評価点数に差異がある箇所について学校側が補足説明をおこない、その後、質疑応答とした。	

基準 1 教育理念・目的・育成人材像	【補足説明】 基準 1-1-4(社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか) 【説明者】 工藤 佑輝 留学生 2 名が入学に結びついている。ベトナムの方はホームページを見て入学に結びついており、多言語の募集要項やホームページなどのツールが結びついたと考える。 また、日本語学校の訪問も実施しており、モンゴルの方はそこからの入学となった。今後も留学生は増える見込みのため支援体制も整えていく。 [小林委員] 高校側も外国籍の生徒が増えており、進路研究会などでも様々話題に上がっていた。学校としてやるべき対策は取れている状況と見て取れる。今後生徒が増えた際にどのように対応していくか期待したい。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価(平均)は 4
基準 2 学校運営	【補足説明】 基準 2-5-1(人事・給与に関する制度を整備しているか) 【説明者】 五十嵐 久乃 以前はコンサルを入れた評価制度を導入していたが、費用対効果が得られず現在は学内で実施している。年度初めに学園目標・学校目標を設定し、さらに部署目標、個人の目標設定をしたのち、定期的に面談をおこない進捗状況を確認している。

	[富岡委員] 評価に関しては学校に対してというより、国に対してなど全体的に賃金が低いというところに憤りを感じている。学校側がこれらの評価制度をしっかりと活用し、給与制度に反映できるようにしていくことが重要である。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.9
基準 3 教育活動	【補足説明】 基準 3-9-2(キャリア教育を実施しているか) 【説 明 者】 池田 昌央 実務実習の実施時期の見直しをおこなった。1 年生 5 月にサロン見学実習 2 日、12 月に実務実習 10 日間と早期のサロン見学を新たに取り入れた。これは入学後、早期職業意識をつけるためとしており、効果があると感じている。一方課題として実施後の意識を高く継続させることが難しい。定期的な業界人の展示・講話をキャリア教育の中にさらに取り入れていくことが重要だと感じている。 【補足説明】 基準 3-9-4(授業評価を実施しているか) 基準 3-10-1(成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか) 【説 明 者】 嶺 雄太 匿名で授業アンケート(12 項目)を実施している集計後、12 月・2 月に学科講師を集めて講師研究会を実施し、次年度の授業内容についての意見交換をおこなっている。 また講師アンケートは全体の平均値を出し、全体の底上げができるようにしている。 成績評価に関しては学生便覧を昨年度から配布しており、各授業の到達目標などを学生自身で把握できるようにしている。また実技試験においては実施要項を学生へ 1 週間前に提示している。 [文道委員] 学生便覧を初めて拝見し細かく記載されいることは確かだと感じた。 【補足説明】 基準 3-12-2(教員の資質向上への取組を行っているか) 基準 3-12-3(教員の組織体制を整備しているか) 【説 明 者】 工藤 佑輝 [3-12-2] 年度ごとにテーマを決めて月に 1 回、学園全員が参加する教職員研修を実施している。実技研修や勉強会においては BA 東京と包括的な連携をとって教員がプロの方と一緒に勉強会に参加している。 外部研修の参加もしているが、これらによって教職員の資質が向上されているかは自己評価ではなかなか図ることができない。今後 EM 委員会を通し、学生や卒業生の満足度を元に今後検証していきたい。 [3-12-3] 各部署設備されているが、部署ごと縦の流れで終わってしまうこともある。 横のつながりができる各種委員会などを通し、横断的な組織体制がとれるように体制を整えている。

	[遠藤委員] 資質向上という点においてはサロンでも模索しているが、学校としての体制は整っていると感じている。 [篠崎委員] 美容業界の流れは早いのでお客様へのニーズを考え新しく取り入れていく必要がある。 【補足説明】 自由記載 【説 明 者】 高橋 淳実 チャット GPT の登場による美容業界の働き方の変化においては、予約や SNS 集客、商品説明の内容などで利用するサロンも現状出てきている。ただし目の前の顧客に対しての仕事であることからこれらに頼り過ぎないことが重要である。 [阿部委員] 学校の授業で指導する上で懸念事項として高校現場でも話題に上っている。まだ出始めだが、いいものは取り入れて取捨選択していく必要がある。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.9
基準 4 学修成果	【補足説明】 基準 4-13-1(就職率の向上が図られているか) 【説 明 者】 古 莊 浩 司 本校では入学前の指導から一貫したキャリア教育を実施している。昨年度の卒業生はコロナの影響を受けた学年だったので、例年よりも遅れをとる形となったが、就職希望者は全員決定することができた。コロナも明け、本年度は全体の進行をさらに時期を早めて実施していく。 【補足説明】 基準 4-14-1(資格・免許取得率の向上が図られているか) 【説 明 者】 齋 藤 彩 子 理美容師国家資格は 100%ではなかった。仕上がり確認したところ、学内でも問題点が見つからず、試験センターに開示請求をしており、現在は回答待ちとなっている。学科試験においては対策として月 1 回の定期模試を実施し、科目ごとのデータ分析をおこなっている。苦手な科目部分を徹底分析し学年別や個人指導に役立てていく。 【補足説明】 基準 4-15-1(卒業生の社会的評価を把握しているか) 【説 明 者】 高橋 淳実 すべての卒業生の把握は非常に難しいが今年度より自校アプリを立ち上げそれを利用することで把握がしやすい環境を作っていく。主に在校生向けのアプリだが、卒業後はアカウントを卒業生に切り替え利用することができるため、定期的にアンケート配信をおこない、状況の把握に努める。 [白井委員] 人材が減っており、若い経営者が増えている。業界でも教育に課題を抱えている人が多く、サロンの魅力を伝えきれていない状況である。サロンは専門学校から人がくるのを待っている状況だが、今後は業界人たちが職業の魅力を伝えていき、この職業を目指す

	人材を増やさなければならない。専門学校と業界連携が人材を増やすカギとなる。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.6
基準 5 学生支援	【補足説明】 基準 5-16-1（就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか） 基準 5-17-1（退学率の低減が図られているか） 基準 5-18-1（学生相談に関する体制を整備しているか） 基準 5-18-2（留学生に対する相談体制を整備しているか） 【説明者】 嶺 雄太 [5-16-1] 就職担当・学年担任と連携している [5-17-1] EM 委員会でのアンケート集約を実施。ただし分析まではできていない。 昨年度の退学の分析としては 1 年次の 6 月～7 月が最も多く 2 年生はほぼいない。 経済的な理由よりも心の問題での退学が多い。また早期退学のケースとして入学前から問題を抱えているケースも少なくない。 面接時に細かく聞けるような体制は整えているが面接で本音が聞けるものではないため、事前の高校との連携を図ることが必要である。 [5-18-1] 1 月からスクールカウンセラーを配置し、学生自身で予約をして利用している。またアプリから予約することもできるようにしている。 [5-18-2] 留学生の実績は今年度 2 名。内 1 名は外国人美容師の対象となる。今後学校生活、就職等が課題となる。外国人就労に関しては周囲の状況をみながら実施していく。 [竹島委員] 現在 1 年生の担任をしているが、高校も同様に退学者に関しては中学校からの影響は強いと感じている。早期退学の理由において、その原因が学びの内容が少ない以上学校としての対策の取り方が非常に難しいと感じている。 【補足説明】 基準 5-20-1（保護者との連携体制を構築しているか） 基準 5-21-2（産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか） 【説明者】 福島 美奈子 [5-20-1] 保護者団体である育友会の参加人数が少ないことが課題である。実施方法の見直しとして、授業⇒総会の流れから、総会⇒授業に今年度変更し、昨年度より倍の人数の保護者様に参加いただけた。 [5-20-1] 卒業後の再教育プログラムとして、技術以外の経営セミナーなど内容の工夫が必要であると感じている。 【評価】

	学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.8
基準 6 教育環境	【補足説明】基準 6 自由記載 【説明者】境田 三友紀 コロナが5類に移行されたがそれによる授業形式の変更については特段ない。本校では接触などに配慮しつつも徐々に変更をかけながら授業展開をしていた。マスク着用においては個人の判断としている。エステティックにおいてはコロナに限らずフェイシャルはマスクの着用はしている。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）4
基準 7 学生の募集と 受け入れ	差異がないため特段意見無し 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.9
基準 8 財務	差異がないため特段意見無し 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.9
基準 9 法令遵守	差異がないため特段意見無し 【評価】 学校関係者評価委員会による評価は（平均）3.9
基準 10 社会貢献・ 地域貢献	【補足説明】基準 10-36-2（国際交流に取り組んでいるか） 【説明者】工藤 佑輝 海外研修において昨年度は実施できなかったが、今年度からは実施する方向で調整している。実施できない間も海外との交流を絶やさないために、ベトナム・台湾とZOOMでつないだ交流会を実施していた。また3月にはフランスとエステの技術交流を実施している。本校から海外に出向いた海外交流はできていないが、招き入れる形で交流をしていたため、この評価としている。 [文道委員] 高校の国際学科では3年ぶりにアメリカから高校生を招き入れて実施した。ホームステイ3日間と東京観光を実施した。問題なく実施できたことから今後元に戻っていくと考えている。 【評価】 学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.9
次回開催予定	2024年2月9日（金）18：00～